

鹿児島県教育委員会 令和元年度完了報告書

1. 調査研究概要

(1) 実践した調査研究の内容

生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、変化の予測が困難な時代において、学校、家庭、地域の関係者が、子供たちに新しい時代に求められる資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程を実現し、教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の取組を推進することを目的に、3校を実践校として、それぞれの研究テーマに沿った調査研究を実施し、そこで得た知見をまとめ、他校においてもプロセスから共有できるような手引きの作成を目指す。

(2) 研究テーマと実践校

ア 県立蒲生高校：学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究

イ 県立大口高校：学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究

ウ 県立屋久島高校：現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(3) 成果や課題等

実践校において、カリキュラム・マネジメントへの取組について協議する過程で、生徒や学校、地域の強みを把握することができ、実践校で具体的に設定していた研究テーマについて課題を焦点化し、調査研究を進めることとなった。実践校においては、個々の教職員で行っていた教育活動や教職員のボランティアに頼っていた活動が課題として浮かび上がってきた。この課題を克服するためには、共通理解の下、教育課程への位置づけや整理が求められるようになり、教員の働き方改革にも波及する可能性が出ている。また、グランドデザインを公表することで、生徒に身につけさせたい資質・能力を地域と共有し、地域からもフィードバックされる場面が生まれているなど、「カリキュラム・マネジメント」の取組による好循環が生まれつつある。

しかし、実践校では、教育課程の編成に際して、プロセスデザインが重要となることへの理解が進むにつれ、全教職員が共通理解を図るための良質なファシリテーションの必要性が生まれてきた。新学習指導要領が実施されるまでに、各校が共通理解のための場を確保するとともに、学校自体に良質なファシリテーションが存在する環境をどのように作るかが課題となると考えられることから、実践校における取組を元に、プロセスデザインの参考にもなるような手引きを作成し、令和4年度の新学習指導要領実施時には、県下全校が「カリキュラム・マネジメント」をスムーズに実施することを目指す。

また、3校ともに評価の基準をどのように作成するかを課題として挙げており、次年度の計画と合わせて研究を進める予定である。

(4) 実践地域全体における状況

県教育委員会が主催している県下の公立高校の教職員を対象とした研修では、参加者の8割以上の回答からカリキュラム・マネジメントについて、興味・関心の高さを窺うことができた。

例えば、「カリキュラム・マネジメント」に期待を寄せ、研修での知見を活用し、周囲を巻き込み、新学習指導要領の実施に先がけて取り組みたいとする意欲的なコメントが多い一方で、全教職員で共通理解を持つための時間をどのように生み出すかという点に質問が集中するなど、教職員の多忙感や負担感について意識をしている側面も見受けられる。また、学校で育てたい資質・能力を共有することで教科独自の目標が失われるのではないかと考えたり、グランドデザインの教科への反映に不安を感じたりしているコメントも見られ、教育課程の編成の具体的な手順からそれぞれの学校が考える必要があるという点の理解は、浸透していない状況である。

さらに、実践校3校以外で、グランドデザインを公表している学校は少数という状況にあり、「カリキュラム・マネジメント」の具体的な実践について、課題があると考えられる。

(実践地域における年間実施スケジュール)

月	取組内容
5月	
6月	実践校の現状確認
7月	研究計画の策定
8月	研究計画の策定
9月	検討委員との打合せ
10月	研究計画の見直し
11月	15日：高大接続改革セミナー（カリキュラム・マネジメントについての研修） 19日：第1回カリキュラム・マネジメント検討会議
12月	12日：第2回カリキュラム・マネジメント検討会議
1月	22日：第3回カリキュラム・マネジメント検討会議
2月	12日：カリキュラム・マネジメント調査研究実地調査（屋久島高校） 19日：第4回カリキュラム・マネジメント検討会議
3月	今年度の研究総括及び次年度の研究計画の策定

2. 調査研究の内容

実践校【蒲生高校】

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究
 - ◆ 全ての教育活動が、それぞれどのような資質・能力を育成し、育てたい生徒像や学校の教育目標の実現につながっているのかについて、職員が共通理解を図る手法や教育目標の実現に向けたPDCAサイクルを効果的に活用する方法を確立する。

(2) 調査研究の内容

2018年度「蒲生高校グランドデザイン」を、育てたい生徒像を具体的に記載して作成し、教科、特別活動等においても落とし込み、グランドデザインに記載し、活用を図ってきた。

教育目標「知・徳・体のバランスがとれ、困難に負けない精神力を持って何事にもチャレンジし、未知の世界にあっても、豊かな想像力と社会性及び課題解決力によって、他と協働しつつ地域社会に貢献できる人物を育成する。」のもと、各教科が教育活動計画を作成した。また、2019年度から始まった「学びの基礎診断」の結果をもとに、本校生に必要とされる基礎学力を探りながら、教科等横断的な視点から（学年縦断的）にどのような力を育成するかの目標を立て、学校全体として統一して取り組むとともに新しい学習指導要領に則った教育課程をどのように作成すべきかを探っている。

今年度は、1学期(6月4日実施)に実施した1学年「学びの基礎診断」の結果をもとに、令和元年8月23日に学習指導委員会で検討した。結果をもとにした分析から「表現する力、文章を理解する力」が不足していることが指摘された。それをもとに、8月30日の職員会議にて「すべての教科で、文章をまとめる時間、発表する時間を確保する。また、定期考査等において、暗記した単語を答えさせる問題ばかりでなく、文章で表現し解答する問題、選択肢の中に文章を読み解く力を見る問題を導入することが必要である」ことが報告された。

次年度は、「自立できる生徒を育てる」ために、教科の中で今後どのような取り組みをしていくかについて、職員の意見を集約し、教育課程委員会での各教科でのグランドデザインにおける取り組みの見直しを行う予定である。

本校の現状

各学年普通科2クラス、情報処理科1クラスの合計3クラスで構成されているが、普通科については例年募集定員を下回っている。始良市内出身の生徒が多く、バスやバイク、自転車等で通学している。進路については就職希望者と進学希望者が半々くらいだが、年度によって差がある。進学希望者は専門学校への進学が多い。普通科は2年次からコース制を設けてあり、進学希望対象者（普通コース）と就職希望者（総合コース）に分かれる。総合コースには、韓国語や中国語、ビジネススキルなどの特色ある学校設定科目がある。部活動の加入率は全体で約6割程度である。授業以外に朝学習や放課後補習（全

学年)、検定前の補習(情報処理科)などを実施し、学力の育成に取り組んでいる。

生徒の現状

落ち着いた雰囲気の中で授業を受けている生徒が多い反面、中学卒業時までの学力が不十分なため、授業内容の理解についての支援が必要な生徒も見受けられる。各学年普通科2クラス・情報処理科1クラスという編成のため、少人数の中で人間関係が固定化し、学年が変わっても友人関係が思わしくない生徒がいる。また、さまざまな配慮や支援の必要な生徒もおり、自己管理能力や人間関係形成力の育成や指導を行っている。養護教諭との連携やSCの巡回訪問を通して不登校傾向の生徒に対応している。QUテスト(1・2年生)、鹿児島県総合教育センター作成の自己評価ツール「学校楽しいと」(全学年)等を実施して、生徒の状態の客観的なデータを収集し、職員研修で共通理解を図るようにしている。

本校生徒につけさせたい力

本校のグランドデザインは昨年度から提案され、職員の共通理解のもと、さまざまな取組が進められているが、今回(令和元年～2年度)の調査・研究においては、ある意味総花的なグランドデザインを考慮しながらも、この2年間の取り組みの中で、具体的に取組可能なテーマを設定する必要がある。例えば、アクティブ・ラーニング(主体的・対話的な深い学び)を取り入れた授業を実践するにしても、クラスメートと協働する力(人間関係形成力)や他人の意見に耳を傾ける姿勢(自己管理能力)などが必要である。また、学びに向かう力・人間性等の涵養も意識し、学力の3要素をバランスよく育成することが大切である。

QUテストについて

本校では例年1・2年生で実施(今年度は6月)され、夏季休業中に職員研修を行っている。各クラス(集団)および生徒(個人)の傾向や課題が具体的に示され、個々人の学習活動に対する有効なフィードバックとなっている。しかし、年1回の実施のため、個人の変容を把握するには次年度を待たなければならない。年2回の実施であれば、年度内にデータを分析し、クラスや生徒個人への有用な指導指針として活用できる。また、データを分析し集団や個人の状態を的確に把握することは、PDCAサイクルの「P」(行動計画)に該当すると考える。

大楠タイム(総合的な探究/学習の時間)について

本校では、平成29年度から年間指導計画の見直しを行い、今年度が実施2年目にあたる。(情報処理科は課題研究で代替)「始良・霧島地域の抱える課題について」というテーマのもと、さまざまな取組を行っているが、前述の通り、本校生徒の課題としては、基礎学力の不足があげられる。「総合的な探究/学習の時間」を通して学び直しや教科横断的な指導に取り組むことにより、達成感や成功体験を持たせることにつながると期待できる。

今年度の調査・研究の進め方と内容について

- 1 教育課程委員会での自立できる生徒を育てる」ための教科の取り組みをどのように進

めるかの検討(P)

- メインテーマ「自立できる生徒を育てる」～伝え合い、わかちあう学びを通して～
- サブ（下位）テーマ
 - ・ 表現力や読解力の育成（「学び」の基礎診断・学習指導委員会報告）
- カリキュラム・マネジメント充実のための視点
 - ・ アクティブラーニングを含めた授業改善の取り組み
 - ・ 学び直しや教科横断的な指導の実践（大楠タイム等）
 - ・ シラバスや単元計画の見直し（本校生の実態に即した弾力的な運用計画）
 - ・ 学習に向かう姿勢や能力の育成（学習に向かわせる工夫・ルール作り）
 - ・ 自己管理能力や人間関係形成力の育成（暖かみのあるクラス・集団の形成）
- 2 グランドデザインにおける各教科の具体的な取り組みの検討(P)
 - ・ 現在（今年度）、実践している取り組みの途中経過を確認
 - ・ 次年度に向けての見直し（必要に応じて）
- 3 先進校視察による情報収集(P)
 - ・ 県外の先進校を訪問し、カリキュラム・マネジメントの取り組みについて情報を収集する。
- 4 職員研修によるスキルアップ(P)
 - ・ カリキュラム・マネジメントについての講演を聞く
 - ・ 各種検査結果を分析し、改善策検討する
- 5 サブテーマをもとにした授業改善の取り組みおよびQUテスト（第1回）の実施・分析(D)
 - ・ 令和2年度当初から実施。
 - ・ QUテストについては年1回（6月）実施する。
- 6 研究授業や公開授業の実践およびQUテストの実施(C)
 - ・ 研究授業は国・数・英・大楠タイム
（「学び」の基礎診断実施教科＋総合的な探究／学習の時間）、上記教科以外は公開授業。詳細は未定
- 7 新教育課程の編成(A)
 - ・ 令和2年度の1学期は令和3年度分の検討。2学期以降は令和4年度以降分を検討。
 - ・ 調査研究の成果を編成に反映させる。
- 8 教育課程委員会(R01 10/17)で出された意見と確認した方向性
 - ・ 3つの力（学習に向かう力・人間性、知識及び技能、思考力・判断力・表現力等）のどれに重心を置くのか？ → 学習指導委員会が出された「表現力や読解力の育成」とする。
 - ・ 評価はどのように行うのか。 → 「学びの基礎診断」とQUテストで行う。
 - ・ 出口（進路）保障のための指導（学力—知識及び技能）は行わなくてはならない。
 - ・ サブテーマを「表現力や読解力の育成」とし、各教科で具体的な取り組みについて話し合う。
 - ・ 今年度中にサブテーマについての取り組みを確認し、来年度当初から指導実践を始める。

(P→Dへ)

9 第1回検討会議（令和元年11月）後の取り組みについて

- (1) 来年度に向けた各教科の取り組みについて（別添1 各教科）
- (2) 授業評価アンケートの実施（令和元年12月 別添2）
- (3) 職員研修の実施（令和元年12月25日）
講師：鹿児島県総合教育センター 福森真一 研究主事
- (4) 県外視察の実施（令和2年2月）

スケジュール

年・月	取り組み	校内行事	各種検査
R01 10月	教育課程委員会		
R01 11月		期末考査	「学び」の基礎診断（2年） 第1回検討会議
R01 12月	教育課程委員会 サブテーマの集約 職員研修	修学旅行	
R02 1月			
R02 2月	教育課程委員会 次年度へ向けて 先進校視察・職員研修	学年末考査	第2回検討会議
R02 3月	グランドデザインの見直し	卒業式・ 高校入試	
R02 4月	グランドデザインの提案 サブテーマに基づいた授業実践 教育課程委員会（教育課程編成）	入学式	
R02 5月	教育課程委員会（教育課程編成）	中間考査	
R02 6月		期末考査	「学び」の基礎診断（1年） QUテスト（1・2年）
R02 7月			
R02 8月	校内研修（結果分析） 授業実践の見直し		
R02 9月		体育祭	「学び」の基礎診断（2年）
R02 10月	教育課程委員会（公開準備）	大楠祭・ 中間考査	
R02 11月	研究公開（県民週間期間）	期末考査	
R02 12月	教育課程委員会 グランドデザインの見直し	修学旅行	
R03 1月			
R03 2月	調査・分析のまとめ	学年末考査	
R03 3月	県へ報告	卒業式・ 高校入試	

- 参考文献 カリキュラムマネジメントに挑む（長田徹・図書文化）
 カリキュラムマネジメントが学校を変える（中留武昭，田村知子 学事出版）
 高校生に確かな学力をつける（田口哲男 学事出版）
 評価が変わる，授業を変える（高木展郎 三省堂）
 高等学校学習指導要領解説総則編（文部科学省）

（３）調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

- 成果
 - 1 教職員の「カリキュラム・マネジメント」への理解を深めることができ，理解を深めることにより，個々の職員に授業改善を通じた教育目標達成の意識が生まれた。
 - 2 「グランドデザイン」の作成により，学校全体としての課題への教科横断的な取組と同時に，各教科の具体的取組が明らかになった。
- 課題
 - 1 グランドデザインにおける「育てたい資質・能力」における項目を整理して，重点化する必要がある。
 - 2 各教科も取組と「育てたい資質・能力」との関係を教科ごとに再考して，整理する必要がある。
 - 3 整理した項目をどのように実践していくかを教科ごとにシラバスとの関係を見直す必要がある。

（４）実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
5月	教育課程委員会
6月	「学び」の基礎診断（1年） QUテスト（1・2年）
7月	
8月	校内研修（結果分析） 授業実践の見直し
9月	「学び」の基礎診断（2年）
10月	教育課程委員会（公開準備）
11月	研究公開（県民週間期間）
12月	教育課程委員会 グランドデザインの見直し
1月	
2月	県外視察実施 調査・分析のまとめ
3月	職員会議(カリキュラム・マネジメント校内報告・県外視察報告) 県への報告

実践校【大口高校】

（１）研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

- ◆ 地域活性化活動への実践的取組や教科等の探究的な取組を通して、学習の基盤となる、言語能力、問題発見・解決能力、情報活用能力を育成する。

(2) 調査研究の内容

学習の基盤となる言語能力、問題発見・解決能力、情報活用能力の育成について、次のア～ウの教育活動を中心に、研究する。

計画段階での具体的な研究概要は、「ICT機器を活用した情報活用能力の育成と地域活性化活動への実践力の育成を図る」であったが、地域活性化活動も含めた大口高校の教育活動を通して伸長を目指す資質・能力について検討した結果、具体的な研究テーマを(1)研究テーマにあるとおりに修正した。

ア 地域貢献活動を通じた目指す生徒の資質・能力の育成

(ア) 地域活性化プロジェクト「もみじ祭り」プロデュース

「もみじ祭り」は、大口高校が位置する伊佐市の名所である曾木の滝で11月末に行われる年間行事の1つである。市内外から多くの人々が訪れ、地域活性化のための市の一大行事となっている。主催は伊佐市観光特産協会及び市であるが、この行事の企画と本番までの準備、当日の運営等に大口高校生が毎年大きく関わっている。

この活動に参加することで、その過程で生徒たちは「育てたい資質・能力」の多くの部分を学び、実践から身につけていく。特に、「発信力」「協働力」「コミュニケーション力」「チャレンジし、やり抜く力」等の伸張が期待される。

現在、1・2年を対象にボランティア活動として位置づけているが、その数は毎年増えて今年は100名(1, 2学年に占める割合は75%)

7月に募集し、11月末の開催まで継続して活動し、1月には、振り返り会を設定した。育成を目指す生徒の資質・能力の設定や生徒と教職員の間の共通理解に反映させるために、振り返りで使用しているアンケート(別添3)に「もみじ祭り」プロデュースで「自分に身についたと思われる力」に関する質問を設定した。

(イ) 活動スケジュール

地域活性化プロジェクト「もみじ祭り」 生徒会議日程

	会 議 名	内 容
8月26日	キックオフ (グループ分け)	
9月14日	現地探索(鶴田ダム・滝)	9:00 学校出発(貸切バス) 職員3名
9月18日	コアメンバー会議 第1回	
9月27日	グループ別会議 その1	Art, Event, Food, Stage で個別相談
10月1日	グループ別会議 その2	Biotope, Design, Light, Promotion で個別相談
10月11日	コアメンバー会議 第2回	妄想をアイデアにブラッシュアップ! →次回100人会議へ提案

10月18日	100人会議 第2回	アイデアを企画にブラッシュアップ！ スケジュール確定！ 役割分担！
10月18～		グループ別活動
10月下旬	コアメンバー会議 第3回	進捗状況確認&相談
11月6日	100人会議 第3回	もみじ祭り当日のシフト検討
11月下旬	コアメンバー会議 第4回	進捗状況確認
11月22日	Light 並べ	
1月23日	前日準備	
11月24日	もみじ祭り当日	荒天のため中止
1月6日	振り返り会	振り返り・課題・来年度へ向けて

＊ 連携機関〔伊佐市、伊佐市観光特産協会、曾木の滝観光協会、日本大学生産工学部〕

イ 各教科の地域と連携した取組等

学習の基盤となる資質・能力を育成する教科の取組で、特に地域と連携した活動例として次のようなものがある。

【国語】

- ・ 地域の文化活動へ参加
- ・ 市が主催する「黄金の俳句コンクール」，「海音寺潮五郎読書記念感想文コンクール」，「福祉作文コンクール」

【地歴・公民】

- ・ 地域の歴史についての授業2年（地元の高熊山の西南戦争後の発掘調査をした県埋蔵文化センター職員を講師として）。
事前に発掘調査現場で説明会に参加した生徒もいる。
- ・ 日本史選択者3名（2年）が地元歴史研究（昨年度）
明治維新150周年「維新未来博」（明治維新150周年記念プロジェクト実行委員会）歴史研究テーマ発表で優秀賞を受賞
テーマ「曾木の滝と明治維新～伊佐地方の川内川開発による殖産興業政策について」

【理科】

- ・ ビオトープ（大学連携）
日本大学と連携している「もみじ祭り」でビオトープ（生物生息空間）についての学習を行っている。ビオトープは植物・生物が生息できるように公園や河川整備に取り入れられるが、曾木の滝から続く湿地帯に作られている。9月14日（土）には、もみじ祭りボランティア約40人の生徒が大学の先生、院生の指導のもと現地学習に参加。

【体育】

- ・ 地域の指導者が体育祭で生徒集団演技の指導
集団演技「ちむどん」は沖縄発祥の組踊であるが、本市にその教室があり、そこに

通う本校生たちが数名いたことがきっかけで、2年前から体育祭で1・2年生全生徒で行う集団演技となった。体育祭前には地域の方が来校して生徒たちを指導する。一方、伊佐市体育祭には1・2年生の全生徒が参加して集団演技を行う。本校体育祭には地元教室で「ちむどん」を習っている小中学生なども参加する。地域の方による指導、異年齢集団との協働によりコミュニケーション力の伸張にもつながっている。

【英語】

- ・ 国際交流：10月2日、本校を訪問したアリゾナ州 Morenci 中高生8名と生徒会との交流
- ・ 「夏休み子ども英語教室」地域の子どもたちに生徒が英語を教えるボランティア

【教科学習と関係した地域活動】

- ・ 夏休みの小学生の宿題を高校生が教えるボランティア
- ・ 地区の文化祭への作品展示（書道、美術）

ウ 総合的な探究/学習の時間

単元名『自分を知る，地域を知る，社会を知る』

1学年では、具体的な課題研究のテーマはまだ決定しておらず、課題研究のための探究活動の段階である。具体的には「疑問・興味・関心」を持つこと、情報の集め方や信頼性、情報の文章化や整理法、グラフ・統計の利用法など、課題研究の進め方についての学習段階である。

1学年から継続して2学年では、生徒が各自で課題を設定し、探究活動を行い、各クラスで課題研究発表を行う。クラス発表での相互評価を経て、選抜された生徒が全体の場で発表を行う。本年度の第1回は10月31日に実施した。クラスから選抜された発表者7名のプレゼンを1・2年生の全生徒が評価して最優秀賞を決定する。

最優秀賞の研究発表テーマ「高校生がボランティアに参加することは本当に地域活性化につながるのだろうか？」

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

ア 「地域活性化活動」の学校教育活動への位置付け

地域活性化活動として取り組んでいる生徒たちによる地域行事のプロデュースは、連携機関とともに、計画的・組織的に行っており、学習の基盤となる生徒の能力伸長につながっていると思われる。また、アンケートで「自分に身についたと思われる力」に関する質問を設定したことで、連携機関の方々も生徒の資質・能力に意識を向ける結果となった。今後、学校で組織的に取り組む活動として、どのような形で授業等に位置付けていくことができるかが課題である。

来年度は、「総合的な探究の時間」にテーマの一つとして位置付けていくことで、さらに充実した活動に発展できないかと考えている。

イ 教科指導における学習の基盤となる資質・能力の場面設定

各教科において、目標とする学習の基盤となる能力の育成について、どのような方法で評価し、どのように伸長状況を確認していくかが課題である。課題解決のためには、育てたい資質能力をさらに具体的にグランドデザイン等で示し、全職員の共通理解を図りながら、各教科の特性を生かした取組を検討していく必要がある。これに伴

い、シラバスの内容等も改善する必要がある。

ウ 総合的な探究／学習の時間の充実

現行の取り組みで探究活動については、生徒も意欲的に取り組んでいる。アで述べたとおり地域活性化活動のテーマの一つとして扱うことで、総合的な探究の時間自体の充実を図りたい。

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
5月	
6月	
7月	地域活性化活動（地域行事のプロデュース）関係機関と係職員の打ち合わせ
8月	地域活性化活動へ向けた生徒の組織編成
9月	地域活性化活動〔計画と準備〕
10月	教科・学年のカリキュラム・マネジメント取組状況調査，グランドデザイン作成
11月	地域活性化活動〔本番へ向けた校外での準備・活動〕
12月	
1月	地域活性化活動振り返り会，
2月	
3月	グランドデザインの見直しと確認，新年度シラバス作成見直し検討

実践校【屋久島高校】

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究
 - ◆ 地域研究施設や先進的な環境学習を実施している学校，大学などと連携・協働し，教科横断的な視点で，環境問題等の現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成する。

(2) 調査研究の内容

現代的な諸課題（特に、環境問題について）に対応するための資質・能力の育成に向け、県内唯一である本校の環境コースに特徴的な取組である郷土研究を教科等横断的な視点から多面的に取組を進める。同時に、普通科の総合的な探究学習や情報ビジネス科の課題研究などとも連携をしつつ、屋久島ならではの学びを進めるべく全校的な体制でカリキュラム・マネジメントを研究する。

なお、計画段階では、研究実践の中心は、現代的諸課題に関する教科等横断的な教育活動を特徴とする環境コースとしていたが、環境コースの取組は、探究学習への全校的な効果がある点や普通科の他コースや情報ビジネス科でも資質・能力の育成に向

けての取組がなされているとの指摘を受け、(1) 研究テーマの具体的な研究概要のとおり、修正を加えた。

研究テーマの設定理由

環境コースでは、屋久島の環境（自然・文化・歴史・行政など）を学び、持続可能な社会形成に取り組む実践的能力や態度を身につける。環境専門科目では、環境に関する基礎知識を身につけるとともに、外部講師による特別講義や宿泊研修など多様な行事に取り組んでいる。

上記の活動を通して、今後、社会で求められる力であるプレゼンテーション能力とインタープリテーション能力の育成を目指した体験型の学習の実践と幅広い進路実現への対応を目指す。

環境コースの授業について（現状）

1 学期は、生物・地学の授業（4・5 限）＋課題研究（外部講師の講話等を含む）（6 限）

今年度講師 国立歴史民俗博物館 准教授 柴崎 茂光 様

屋久島自然保護官事務所 水川 真希 様

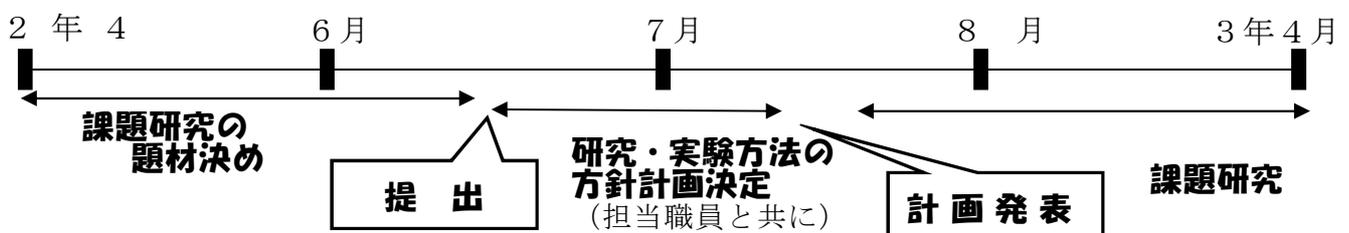
2 学期期末考査までは、公民・家庭の授業（4・5 限）＋課題研究（6 限）

2 学期期末考査後は、課題研究（4・5・6 限）

課題研究については、1 学期に「課題研究とは」という今後の研究の内容について講義していく。今年度は、2 学期からは以下のとおりの日程で、黒潮キャンパスの時間（総合的な学習の時間）でのテーマ決め・計画発表ののち、研究を具体的に進めていった。できるだけ、地域に貢献できるような内容のテーマとして、最終的に地域に還元できる内容にしている。

その他、高校間交流を進めており、主に3年生が課題研究の内容などを発表し、2年生は環境コースの説明をしている。

高校間交流実施高校 東京都郁文館高校
東京都郁文館グローバル高校
山口県徳山高校
福岡県柏陵高校



課題研究（探究活動）について

1 何をするのか

屋久島や屋久島にある素材を生かした内容で、研究もしくは環境保全実践をし、報告書

にまとめる。

屋久島を学び 屋久島を調べ 屋久島を記す

2 指導を受ける講座について

次の4講座を開設し、いずれかの講座に所属（その他に何かあれば相談）

I 生物学講座 < 屋久島の動物・植物 など >

II 地学講座 < 屋久島の地質・災害 など >

III 社会学講座 < 屋久島の行政・文化 など >

IV 家庭講座 < 屋久島の衣・食・住 など >

V 特別

3 黒潮キャンパス（総合的な学習/探究の時間）と扱うテーマをできるだけ同一にする。

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

現時点までに様々な取組を進め、環境コースについては教育課程の改定や講座内容の改善を行ったところであるが、普通科の取組や屋久島の多くの魅力的な素材を連携させる点に、今後の課題がある。生徒が、地域の課題を発見し、地域と連携し、対応策を模索できる力を育成するための目標設定をさせられるよう、授業における探究的手法を研究する。

また、生徒は、屋久島が観光の島であることへの認識はあるが、観光客目線での情報発信や案内が求められていることに気付いていない。町との観光連携協定を軸に、こうした地域課題の解決に向けた取組が自発的に起こるような気づきの場を設定し、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を地域と連携して育成する。これらを実現しうるグランドデザインを別添4のとおり作成した。

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
5月	
6月	
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	11/19 第1回カリキュラム・マネジメント検討会議
12月	12/4 校内担当者打合せ会議 グランドデザイン検討
1月	1/28 職員会議にてグランドデザイン及び方針の説明
2月	2/5~7 佐賀県、広島県先進校視察（2人） 2/12 第4回カリキュラム・マネジメント検討会議
3月	3/16 大分県先進校視察（予定）（2人）

3. 実践地域全体としての調査研究の結果明らかとなった成果や課題と改善方策

（○：成果，●：課題）

- 実践校で共通理解を図る時間の確保の手立てが議論され、それぞれの学校で取り組まれるようになった。
- 県教育委員会主催の高大接続改革セミナーの参加者が学校の核になり、各教科代表が集まり「カリキュラム・マネジメント」に取り組むことを決め、計画を全職員で共有するなど、実際に推進し始めた学校が少数ながら出てきた。
- カリキュラム・マネジメントに取り組むことで、生徒の資質・能力を組織的・計画的に育成するという観点から、現状が可視化され、現状の課題については、改善策が具体的に検討されている。

(例1) 探究活動において生徒一人一人がテーマを設定している学校において、多くのテーマを指導することになる職員の負担が課題ではあるが、チームでテーマを設定する場合と異なり、生徒が一人一人動かざるを得ない状況は、探究活動においては利点であるという理解の下、議論がなされ、テーマを個人で設定するか、チームで設定するかのいずれかを選択でき、かつ利点を失わないような仕組みを整える検討がされている。また、学科によっては、学校設定科目と総合的な学習の時間でそれぞれ個別のものとして行われていた探究活動に関連を持たせて一続きの活動とすることで、全学科が取り組む総合的な学習の時間における他学科への波及効果が得られた。

(例2) 生徒の活動を支えるために教員が勤務時間外で協力する部分も多い地域行事への協力について、地域活性化活動の中で伸ばされている資質・能力に価値を認め、学校の教育活動に位置づけるよう検討している。そのため、地域活性化活動への参加だけではなく、探究の対象とする方法を検討している。

- 当県では、例えば「学校評価」や「PDCAサイクルの取組」などの取組状況について、県立高校全校に実施状況の確認をしているが、カリキュラム・マネジメントとの関連を意識して回答している学校は少数である。これらの取組がカリキュラム・マネジメントを意識したものとなるように、学校への確認を担当する職員が連携し、学校に確認する内容や方法を精査し、それぞれの取組が目的化しないように留意する。

また、今年度当県で行われたインターハイの運営協力など、カリキュラム・マネジメントの視点をもって取り組めば、資質・能力の伸長に大きく役立ったと思われる全県的な活動が、参加だけに終わった学校もある。今後、令和5年度の全国高等学校総合文化祭等、全県的な活動について、各学校の計画段階で反映できる情報の提供を行う。

- 地域から期待され、行事等に協力する学校は多いが、連携する地域団体等に学校の育てたい生徒像が共有されておらず、資質・能力の伸長の機会を逃している可能性がある。グランドデザイン等を通して学校が何をしているかを発信し、地域でも同じ資質・能力を育成し、評価するような連携を図る。また、地域での活動を実践の場ととらえ、生徒自身が見通しをもって教科の学びを生かせるような連携を図る。
- 研究テーマや育成を目指す資質・能力を表現する単語の定義づけまでは、共通理解が図られていない状況があり、表現から連想される教育活動や指導が精選されずに、実施することを検討された時期があった。そのままの教育活動が実施された場合、現状よりも非効率なカリキュラムになっていた可能性がある。これを解決するには、資質・能力を表現する単語の

定義づけ並びに教科及び特別活動等の指導のねらいとの関連についてまで共通理解する場の設定が不可欠である。なお、実践校においては、学校や生徒の現状における強みの理解と合わせて確認がなされた結果、具体的な研究内容が当初の計画から修正されたところがある。

- 全教職員による共通理解を図るために良質のファシリテーションを全校で実現する必要がある。来年度は、ファシリテーターとしての経験が豊富な検討委員の助力を受けて、実践校の取組を具体例として挙げながら、話し合いの価値を最大化する手法を含めたプロセスデザインを紹介し、具体的な実践につながる手引きを作成する。また、共通理解を効率的に進めるのが困難であっても、短期間でのPDCAサイクルにより共通理解を進める手法がとれないか検証し、新学習指導要領解説に示された手順の例を参考にしつつ、さまざまな学校の実態に対応できる手引きを作成する。
- 「学習指導」と「学習評価」は学校の教育活動の根幹であり、教育課程に基づいて組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割を担っている。現状は、教育課程の実施状況の評価及び改善と、生徒の学習状況の評価のあり方について模索している段階であるが、本調査研究における共通理解を進める手法の活用により、学習評価について学校全体としての組織的かつ計画的な取組が行われることを目指す。
- 現在の資源の活用が中心となり、新たな人的又は物的な体制の確保については、積極的な議論には及んでいない。

4. 参考資料

- ① 実践地域の取組の概要が分かるもの
 - ア 高大接続改革セミナー実施要項（変更版）
 - イ カリキュラム・マネジメント検討会議概要（第1回から第4回）
 - ウ 屋久島高校先進校視察報告
- ② カリキュラム・マネジメント検討会議の資料
 - ※ 第2回から第4回の資料で、第2回からの改訂によるものは、第4回のみ提出。

教科名（ 国 語 ）

- アクティブラーニングを含めた授業改善の取り組み
 - ・ 生徒の積極的な発言を引き出す授業展開を目指す。
 - ・ グループワーク等を積極的に導入し，課題解決型の授業展開を目指す。
- 学び直しや教科横断的な指導の実践（大楠タイム等）
 - ・ 小テストによる基礎学力の定着を図る。
 - ・ プレゼンテーションや小論文対策と連携したテーマ学習等を検討する。
- シラバス（年間指導計画）や単元計画の見直し（本校生の実態に即した弾力的な運用計画）
 - ・ シラバスに即した授業実践を基本に，適宜，生徒の学力や興味・関心に応じた学習内容を選択する。
- 学習に向かう姿勢や能力の育成（学習に向かわせる工夫・ルール作り）
 - ・ 毎時間，毎単元ごとの学習課題を生徒と共有する。
 - ・ 辞書を積極的に活用する授業を行うことで，忘れ物をしないことを意識させる。
 - ・ 適宜，ノート点検や課題チェック等を行う。
 - ・ 漢字能力検定等への積極的な受験を促し，目標を持って学習に取り組む姿勢を育てる。
- 自己管理能力や人間形成力の育成（暖かみのあるクラス・集団の形成）
 - ・ 授業におけるルールを明確にし，けじめのある授業を目指す。
 - ・ 意見交流や自己評価，相互評価等を取り入れ，お互いを尊重し合う雰囲気を作る。

教科名（ 地理歴史・公民 ）

- アクティブラーニングを含めた授業改善の取り組み
 - ・ 図表の読み取り活動を通して，思考力・判断力・表現力を身につける学習活動を展開。
 - ・ 時事のニュースを活用した読解力，思考力，判断力，表現力の向上。
 - ・ ICT 機器の活用による，視覚的な学習活動を通して，基礎的・基本的事項の定着を図る。
 - ・ 単元ごとの作問活動を通して，学習内容の定着率の向上を図る。
 - ・ 授業のテーマを設定し，その答えを導き出すことで，読解力・思考力・表現力を育成する。
 - ・ 学び直しや教科横断的な指導の実践（大楠タイム等）
 - ・ 授業のポイント整理，定期テストの模範解答作成活動を通じた学び直しを実践。
 - ・ シラバス（年間指導計画）や単元計画の見直し（本校生の実態に即した弾力的な運用計画）
 - ・ シラバスに即した授業の実践とともに，生徒の学力に合わせて学習内容の選択を行う。
- 学習に向かう姿勢や能力の育成（学習に向かわせる工夫・ルール作り）
 - ・ 授業における問いかけ・会話を通じて，学習に対する緊張感と意欲を持たせる。
 - ・ 自身の言葉でまとめ，発表させることで学習活動に自信を持たせる。
- 自己管理能力や人間関係形成力の育成（暖かみのあるクラス・集団の形成）
 - ・ 教えあい学習やグループでの学習活動，作問や解答の活動を通して，自分の視点や学習ポイントを互いに伝え合うことでコミュニケーション力の向上を図る。

教科名（ 数 学 ）

- グループごとで教え合い、理解度を深める。
- 理解したことを生徒通しで教え合う姿勢を作る。
- 少人数・習熟度別の編成をし、各生徒の能力に応じて教え、自らで考えていく力を作る。
- 小学校。中学校での学び直しをし、基礎学力の定着を図る。
- 個々の能力に応じて積極的に発表の場を作る。

教科名（ 理 科 ）

- アクティブラーニングを含めた授業改善の取り組み
 - ・ 実験や観察を取り入れた授業を計画的に実施する。その中で「考察」をさせる時間を設け、各自またはグループで考え、発表させる。また、レポートを提出させ、考察の表現力を確認する。
 - ・ 考査において記述で答えさせる問題を出題する。
 - ・ 授業の終わりに「今日の授業で分かったこと」を書かせ、レポートを提出させる。
 - ・ 実験や観察をした際、日常生活との関連を考えさせる。
- 学び直しや教科横断的な指導の実践
 - ・ 計算を苦手としている生徒が多い。小数や分数計算をもう一度学び直しさせる場面を設ける。
- シラバスや単元計画の見直し（本校の実態に即した弾力的な運用計画）
 - ・ シラバスの計画を踏まえ、生徒の実態に応じ内容を厳選し、授業を展開する。
- 学習に向かう姿勢や能力の育成（学習に向かわせる工夫・ルール作り）
 - ・ 義務教育段階で学ぶべきことの復習を含め、生徒の意欲が持続する授業展開の工夫をする。
 - ・ 始業時のあいさつ、服装指導の徹底を図り、社会に出た際の心構えや姿勢を身につけさせる。
 - ・ 教員が説明をする際は、姿勢を正し熱心に聴く姿勢を身につけさせる。
- 自己管理能力や人間関係形成力の育成（暖かみのあるクラス・集団の形成）
 - ・ グループで話し合わせる機会を設け、お互いの意見を尊重しながら自分の意見も言えるようになる。
- （アサーション「自分と相手を大切に作る表現技法」の方法を学ばせる）
 - ・ 新聞記事を読み、感想や意見を話し合う場を設ける。

教科名（ 保健体育 ）

（教科保健）

- 1年
 - ・ グループ活動の中で「意見を述べる」「意見を聴く」「意見をまとめる」という作業をしながら論理的思考力や表現力、協働性を養う。
- 2年
 - ・ グループ活動を増やし、自らが課題を発見し、その解決するための方法を話し合うこ

とができるようにする。

- ・ 単元「環境と健康」では課題研究学習を行い、自分や仲間と共通のテーマについての調査・意見交換を行う過程において表現力や読解力を身につけさせる。また、学習の成果について ICT などを使って発表し、プレゼンテーション力を育成する。

(教科体育)

○ 1年

- ・ 「ネット型」「ゴール型」それぞれの競技の特性を理解しながら、グループ活動の中で味方や相手と関わりながらチームや個人の課題を発見し、それを改善するための練習方法や技術的な改善点などの自分で考えたことをチームメイトや相手に伝える力を養う。
- ・ 個人競技（器械運動・陸上競技）を通して身体運動を高めるとともに、他者との違いに気づき、動きを言語化するという過程において表現力を身につけさせる。
- ・ ダンスでは、表したいテーマやイメージを動きによって相手に伝えるという作品を制作する過程において、仲間と楽しく自由に踊ったり、自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わいながら豊かな表現力や協働性を身につけさせる。

○ 2年

- ・ 1年次よりさらにグループ活動を発展させ、自己やチーム（仲間）の課題を解決するための方法を考え実行しながら、PDCA サイクルを意識し、さまざまな活動に取り組むことで論理的思考力・表現力を身につけさせる。

○ 3年

- ・ 2年次よりさらに発展させ、一人一人が積極的に授業に関わりながら生徒自らが創意工夫して、皆が楽しめる授業を目指す。具体的には、種目の選択、チーム分け、大会の設定など長期的な計画、そして数時間ごとの授業の展開さらに1時間単位での授業の展開など、授業に関わる全ての活動を生徒が、PDCA サイクルを意識しながら主体性を持って活動できるようにする。

教科名（ 芸 術 ）

○ アクティブラーニングを含めた授業改善の取り組み

- ・ これまで同様、アクティブラーニングで授業展開を行う。
- ・ 互いの演奏・作品の鑑賞活動を通して知識・技能をより具体的に明示する。

○ 学び直しや教科横断的な指導の実践（大楠タイム等）

- ・ 楽曲や作品の時代背景を分析させる。（歴史分野と関連づけ）
- ・ 日本歌曲や外国語の歌曲の歌詞の意味を読み取らせ、言葉の響きの美しさを感じ取らせる。（国語、外国語分野との関連づけ）

○ シラバス（年間指導計画）や単元計画の見直し（本校生の実態に即した弾力的な運用計画）

- ・ シラバスに即した授業の実践とともに、生徒の実態に合わせて学習内容の選択を行う。

○ 学習に向かう姿勢や能力の育成（学習に向かわせる工夫・ルール作り）

- ・ できるだけ多くのジャンルの楽曲・作品に触れさせ、芸術に幅広く興味を持たせる。
- ・ 技能習得したものを個人の喜びだけにとどめるのではなく、他者へ披露し、その時に生

まれる緊張感や達成感を味わわせ、意欲・関心を引き出す。

- 自己管理能力や人間関係形成力の育成（暖かみのあるクラス・集団の形成）
 - ・ 重奏・重唱・協同制作を通して、他者との美しい音楽創りやものづくりを成功させるために互いに意見を出し合い、工夫し合うことで、相手の考えや自分との思いの違いにもつながることを伝え、他者とどのように向き合っていくことが大切かを身につけさせる。

教科名（ 英 語 ）

- アクティブラーニングを含めた授業改善の取り組み
 - ・ ペアワークやグループワークを取り入れ、積極的に活動に参加させる。
 - ・ 少人数・習熟度別の授業の実践。
- 学び直しや教科横断的な指導の実践
 - ・ 毎時間の小テスト（復習）。
 - ・ 授業内容に関連した分野の調べ学習。
（例：環境についての長文の場合は環境問題の中で話題になっている問題や現状を調べる）
- シラバスや単元計画の見直し（本校の実態に即した弾力的な運用計画）
 - ・ 各単元に自分の考えを発表する機会を設け、シラバスに位置づける。
- 学習に向かう姿勢や能力の育成（学習に向かわせる工夫・ルール作り）
 - ・ 授業の最初は小テストを実践。
 - ・ 予習の確認・学期終了時のノートチェック。
 - ・ ALT との言語活動を通して、プレゼンテーション能力の育成を図る。
- 自己管理能力や人間関係形成力の育成（暖かみのあるクラス・集団の形成）
 - ・ 英語検定・スピーチコンテスト等の参加を意識した個別指導。
 - ・ 相互に教え合い高め合うグループ・ペア活動の工夫。
（簡単な題材を扱った会話から応用的な英作文まで個々に応じた活動ができるように工夫する）

教科名（ 家 庭 ）

- アクティブラーニングを含めた授業改善の取り組み
 - ・ 家庭生活に必要な基本的知識・技術を身につけさせる。学習内容と日頃の生活をリンクさせて考えられるように教材を工夫し、積極的に課題解決に向けて努力できる姿勢を育てる。
- 授業の振り返りを行い、学習内容の定着を図る。
 - ・ 学び直しや教科横断的な指導の実践（大楠タイム等）
 - ・ 栄養計算などを苦手としている生徒も多い。具体的に考えられるように教材を工夫しながら細かな指導を繰り返す。
 - ・ 家庭クラブ活動を通して、地域との関わりを深め、主体的に行動できるようにする。
 - ・ シラバス（年間指導計画）や単元計画の見直し（本校生の実態に即した弾力的な運用計画）
 - ・ 新聞記事を用いて、学習した内容のまとめを行うことで、単元を超えて社会の問題について考え、論理的思考力や表現力を身につける。

- 学習に向かう姿勢や能力の育成（学習に向かわせる工夫・ルール作り）
 - ・ 提出物は期限を守って提出できるようにするとともに、作品は責任をもって作り上げられるようにする。
- 自己管理能力や人間関係形成力の育成（暖かみのあるクラス・集団の形成）
 - ・ 調理実習などのグループ活動では、役割分担を各グループで話し合わせ、積極的に仕事を行う姿勢とともに、計画的に行動する力を身につけさせる。
 - ・ 被服実習や制作では、互いに教え合い協力する雰囲気を作り、責任を持って作品を仕上げさせる。

教科名（ 情 報 ）

- T Tで厚く教える。
- 実技を通して、パソコンの技術を養う。
- 情報リテラシーを理解させ、情報管理を意識させる。
- 理解したことを生徒相互に教え合う姿勢を作る。
- 個々の能力に応じて積極的に発表の場を作る。

教科名（ 商 業 ）

- 情報を活用し思考表現する力をつけさせる。
 - ・ 具体的指導として、文章や資料を読んだ上で自分の考えを短い文章で記入するトレーニングや、様々な情報や意見をグラフや図表から読み取ったり、分かりやすく表現するトレーニングを行う。
- ビジネス社会におけるコミュニケーション能力をつけさせる。
 - ・ 地域産業との連携・交流で様々な経験をさせ、生徒が主体的に学び、積極的に行動できるようにする。
 - ・ 課題研究等で校外実習の時間を増やすことで、その目的を達成する。受け入れ先の開拓が課題。
- ビジネス基礎やマーケティング、総合実践などを通じたビジネスマナーやモラルを身につける。
- 簿記・会計を通じたコンプライアンスに基づく適正な会計処理の重要性と会計処理方法を身につける。
- 情報処理を通じた情報の処理と分析の方法、求められる情報解析の上で必要となる情報の選択、情報モラルを身につける。
 - ・ 各科目において、体験的かつ主体的に課題解決に取り組める学習法を取り入れる。
- 自ら学ぶ姿勢や自主学習ができるようにする。
 - ・ クラス内での学力の差が大きいため小テストの回数を増やし、学習の理解度を確認しながら進めていくことで、理解度を把握でき、学力の上位の生徒は退屈することなく進められるし、理解度の低い生徒には振り返り学習によって理解度を上げることができる。

授業評価アンケート

〇〇先生の授業について以下の質問に答えて下さい。今後の指導法改善の参考にします。

1. 全体的な感想として〇〇先生の授業はあなたにとってどうですか。
A わかりやすい B まあまあわかりやすい C まあまあわかりにくい
D わかりにくい E どちらとも言えない
2. 〇〇先生の授業の中で、気になっていることはありませんか、自由に記述してください。
(例) 黒板の文字が小さくてわかりにくい など
3. 〇〇先生の授業の中で、ここがいい、と思っていることは何ですか、自由に記述して下さい。
(例) 声が大きくて聞き取りやすい など
4. 〇〇先生の授業で、ここだけは改めて欲しいというところはありませんか、自由に記述して下さい。
(例) 質問を無視することがあるのできちんと拾って欲しい など

もみじ祭プロジェクトに参加して

() 班

() 年 () 組 () 番 氏名 ()

Q1. 参加してどうでしたか(準備の期間を含めて)

- ① とてもよかった ② よかった ③ あまりよくなかった ④ よくなかった

Q2. Q1のように思った理由を具体的に書いてください。

Q3. 班の中で自分が取り組んだことを具体的に書いてください。

Q4. みんなで考えたことが班で取組めましたか。

- ① 思ったように取組めた ② まあまあ思ったように取組めた
③ あまり思ったように取組めなかった ④ 思ったように取組めなかった

Q5. Q4. を選んだ理由を具体的に書いてください。

Q6. 来年度に向けて改善したほうがいいことや新しいアイデアがあれば書いてください。

Q7. プロジェクトを通して学んだことを書いてください。

タイトルをつけるなら 「 力がついた」

Q8. Q7のタイトルをつけた理由を具体的に書いてください。

Q9. 伊佐に対する興味は前よりも持てるようになりましたか。

- ① とても興味を持つようになった ② 少し興味を持つようになった
③ あまり興味を持っていない ④ まったく興味を持っていない

Q10. Q9. の理由をこのプロジェクトの活動とからめて具体的に書いてください。

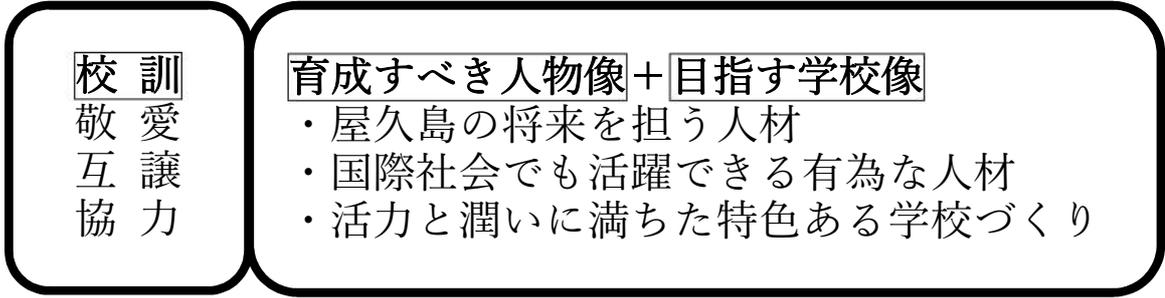
Q11. 1年生対象：来年もこのプロジェクトに参加したいですか。

- ① はい ② いいえ ③ わからない

Q12. 来年度プロジェクトメンバーへのメッセージ



鹿児島県立屋久島高等学校 グランドデザイン カリキュラム・マネジメント



「世界自然遺産屋久島」の自然と環境を基盤に、地域に貢献できる人材を育成する教育の推進

コミュニケーション力	主体的に考える姿勢	豊かな心
・人の話を傾聴し、様々な情報を受け取る力の育成 ・自分の考えを分かりやすくまとめ、伝える力の育成 ・プレゼンテーション能力の育成	・個々に応じた学習指導 ・学ぶ意欲を高める魅力ある授業の実践	・自他の違いを認め、相互に尊重する心を育む ・表現活動を通じた個性の伸長 ・自尊意識の高揚と社会性の育成

